

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	1月				2月				3月				4月	5月	備考
				28	4	11	18	25	4	11	18	下	上	中	下	末		
保管管理計画	3. 瓦礫等の管理・発電所全体から新たに放出される放射性物質等による敷地境界線量低減	(実績) ・一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計 ・ガレキ等の将来的な保管方法の検討 ・線量低減対策検討 ・ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続	検討・設計	一時保管エリアの保管量、線量率集計				一時保管エリアの保管量、線量率集計				一時保管エリアの保管量、線量率集計						備考
		(予定) ・一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計 ・ガレキ等の将来的な保管方法の検討 ・線量低減対策検討 ・ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続		ガレキ等の将来的な保管方法の検討				ガレキ等の将来的な保管方法の検討				ガレキ等の将来的な保管方法の検討						
		線量低減対策検討				線量低減対策検討				線量低減対策検討								
固体廃棄物の保管管理	4. 固体廃棄物の性状把握	(実績) ・【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 ・【研究開発】JAEAにて試料の分析(現場:JAEA東海等) ・分析試料のJAEA東海・民間分析施設への輸送	検討・設計	【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 固体廃棄物のサンプリング				【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 固体廃棄物のサンプリング				【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 固体廃棄物のサンプリング						備考
		(予定) ・【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 ・【研究開発】JAEAにて試料の分析(現場:JAEA東海等)		実績反映				実績反映				実績反映						
		輸送準備(放射能評価、計画書作成等)				輸送準備(放射能評価、計画書作成等)				輸送準備(放射能評価、計画書作成等)								
処分計画	5. JAEA分析・研究施設の整備(施設管理棟、第1棟、第2棟)	(実績) ・施設管理棟建設工事 ・第1棟建屋現地工事 基礎工事	検討・設計	施設管理棟建設工事				施設管理棟建設工事				施設管理棟建設工事						備考
		(予定) ・第1棟建屋現地工事 基礎工事		第1棟建屋現地工事				第1棟建屋現地工事				第1棟建屋現地工事						
		基礎工事				基礎工事				基礎工事								
				▼運用開始予定(3/15)				▼運用開始予定(3/15)				▼運用開始予定(3/15)						

・多核種除去設備の運転状況に応じて順次試料を採取
・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている
<http://fukushima.jaea.go.jp/initiatives/cat05/tech-info.html>

・2017年3月7日:
JAEA分析研究施設第1棟
実施計画変更認可
(原規規発第1703071号)

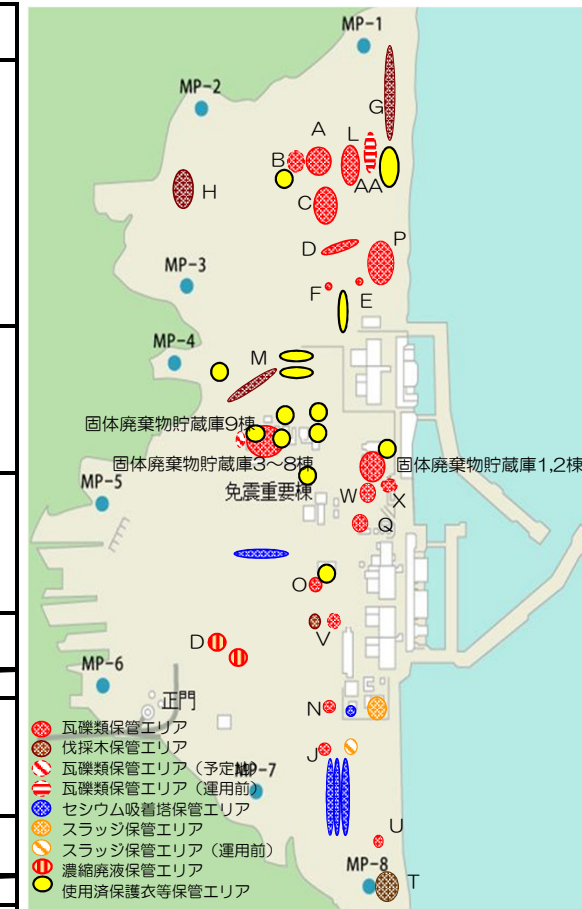
・2018年2月28日竣工(施設管理棟)
・2018年3月15日運用開始予定(施設管理棟)

・杭工事完了(2017年8月7日)

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.1.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比 ^{※1} (2018.2.1)	変動 ^{※2} 理由	エリア 占有率	保管量 ^{※3} / 保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800 m ³	0 m ³	—	85 %	165000 / 214300 (77%)	・フランジタンク解体片 エリアP1にて一時保管中。(2015年6月15日～) 2018年1月末時点で532基(コンテナ)保管。
		C	屋外集積	0.01未満	59,000 m ³	+400 m ³	①②	93 %		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85 %		
		J	屋外集積	0.02	3,600 m ³	-700 m ³	③	45 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45 %		
		O	屋外集積	0.01未満	39,900 m ³	+1,200 m ³	④⑤	78 %		
		P1	屋外集積	0.01	47,300 m ³	0 m ³	—	74 %		
	U	屋外集積	0.01未満	0 m ³	0 m ³	—	0 %			
	V	屋外集積	0.01	1,500 m ³	0 m ³	—	26 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58 %	31000 / 71000 (44%)	・エリアWでの車両解体(プレス等)が完了し受入開始。
		E1	シート養生	0.02	13,600 m ³	+100 m ³	⑥	85 %		
		P2	シート養生	0.01	5,500 m ³	0 m ³	—	61 %		
		W	シート養生	0.05	3,200 m ³	+1,100 m ³	①	11 %		
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100 %	21600 / 27700 (78%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。
A		仮設保管設備	0.25	6,500 m ³	+1,000 m ³	⑦	91 %			
E2		容器 ^{※4}	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19 %			
F1		容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99 %			
Q	容器	0.06	2,100 m ³	-1,000 m ³	⑧	35 %				
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.02	9,300 m ³	微減	—	78 %	9300 / 12000 (78%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。	
合計(ガレキ)				226,900 m ³	+2,700 m ³	—	70 %			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,100 m ³	0 m ³	—	63 %	96500 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600 m ³	+100 m ³	⑨	88 %		
		V	屋外集積	0.01	100 m ³	微増	—	1 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	88 %	37300 / 41600 (90%)	
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94 %				
合計(伐採木)				133,800 m ³	+100 m ³	—	76 %			
保護衣	屋外集積	容器	0.04	59,300 m ³	-600 m ³	⑩	83 %	59300 / 71200 (83%)	・使用済保護衣等焼却量 3438t (2018年1月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 768本 (2018年1月末累積)	
合計(使用済保護衣等)				59,300 m ³	-600 m ³	—	83 %			
仮設	瓦礫類	U(仮設分)	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—		・タンク設置スペース確保に伴い、エリアJより持込み。	
合計(仮設運用エリア)				700 m ³	0 m ³	—				

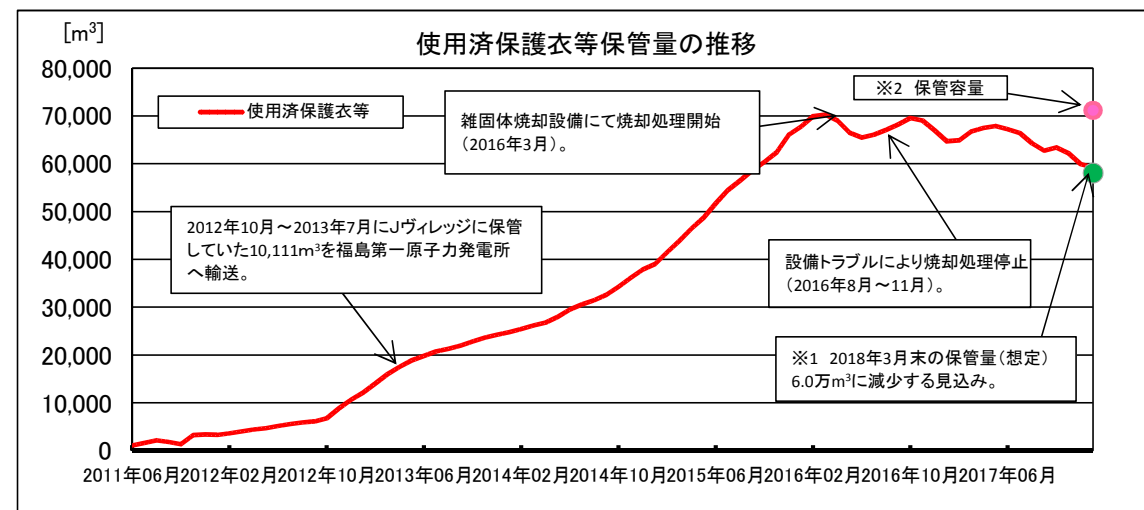
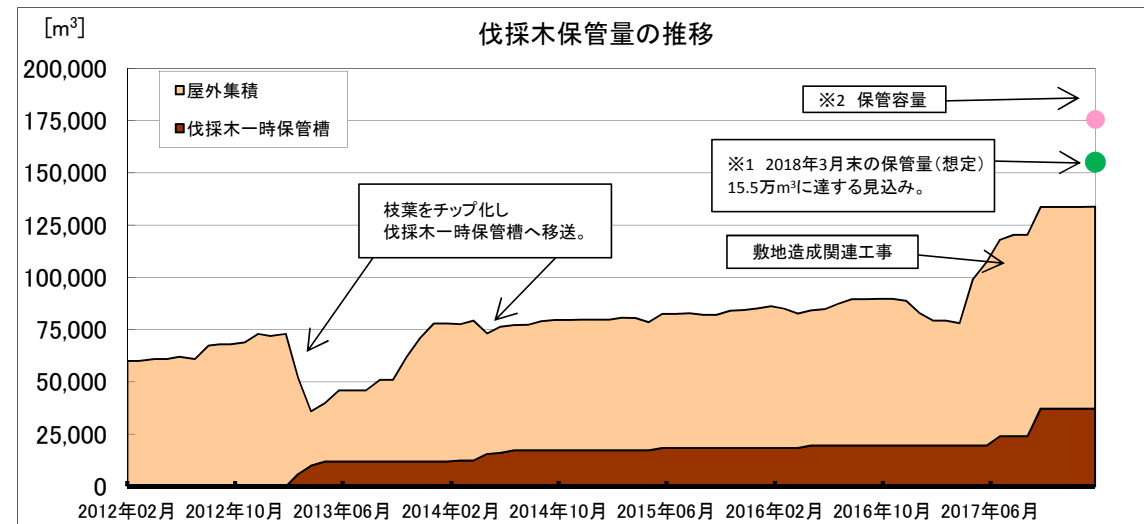
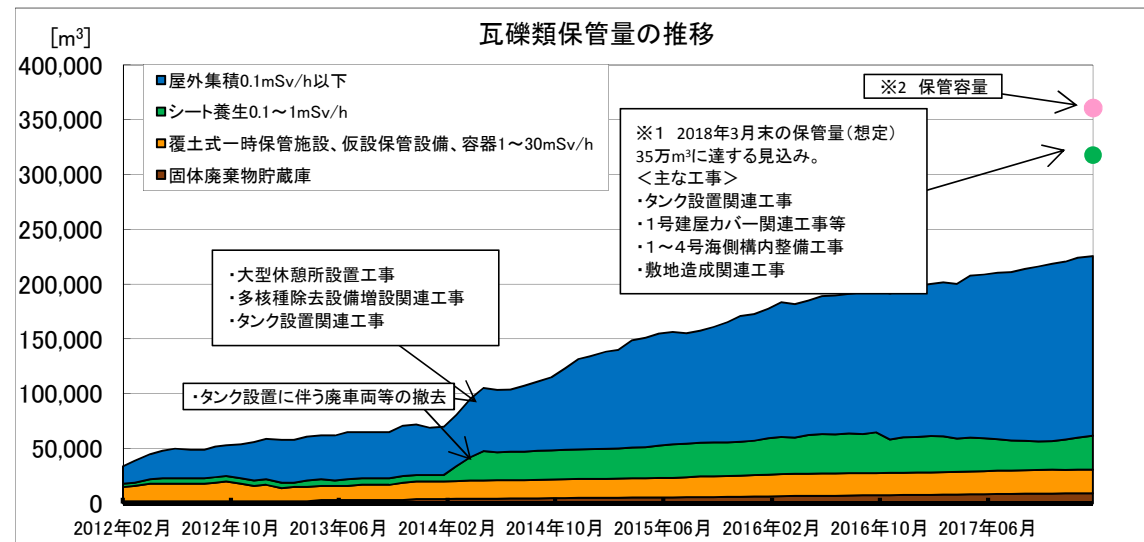
※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由：①タンク設置工事 ②敷地造成関連工事 ③瓦礫を一時保管エリアOに移動 ④固体廃棄物貯蔵庫設置工事 ⑤一時保管エリアJから瓦礫の受入
 ⑥除却工事に伴い発生した土壌 ⑦一時保管エリアQから瓦礫の受入 ⑧瓦礫を一時保管エリアAに移動 ⑨構内除草・伐採業務 ⑩焼却運転
 ※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



水処理二次廃棄物の管理状況(2018.2.1時点)

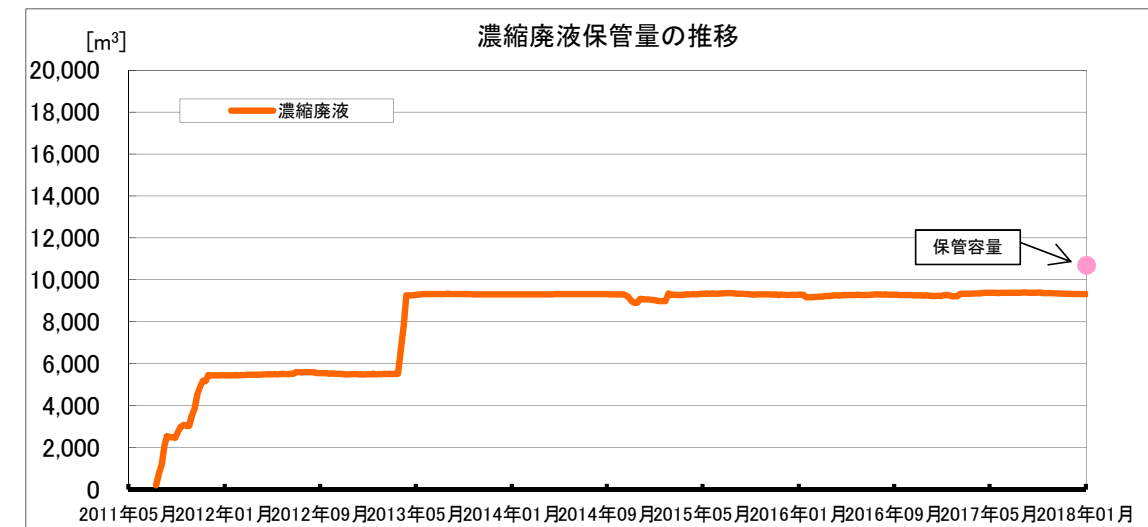
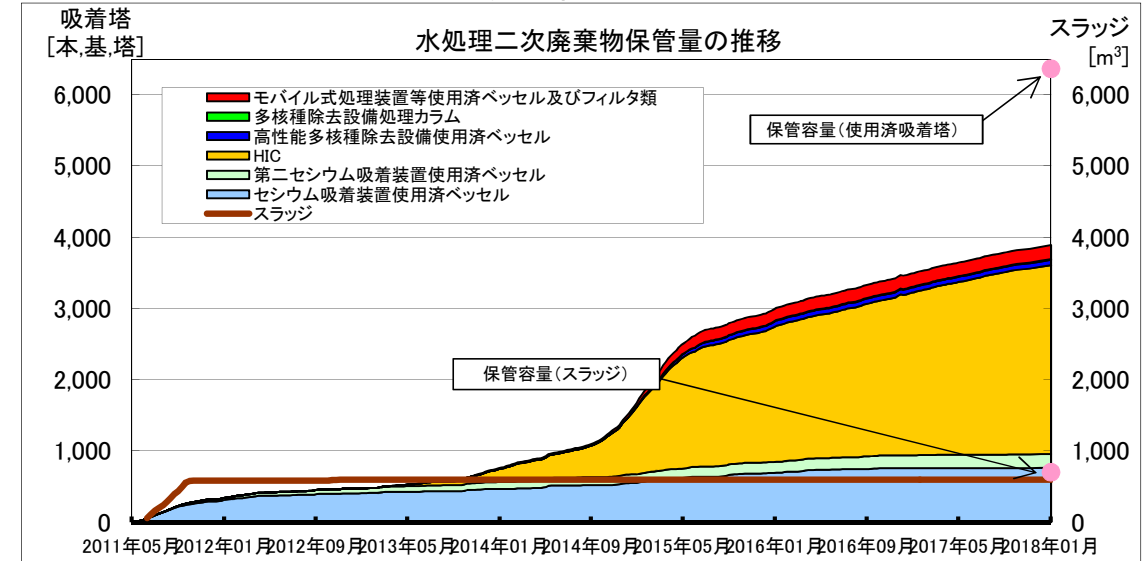
分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2018.2.1)	保管量 / 保管容量 (割合)	トピックス
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	763 本	0 本	3889 / 6368 (61%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	194 本	+2 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,446 基	0 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	1,205 基	+21 基		
		高性能多核種除去設備処理カラム	74 本	+1 本		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	11 塔	0 塔		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,319 m ³	0 m ³	9319 / 10700 (87%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量: 9219 [m ³] タンク底部～水位計の保管量(DS): 約100[m ³]	

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.1.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年1月26日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2018年1月26日認可)の保管容量の運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.2.1時点)



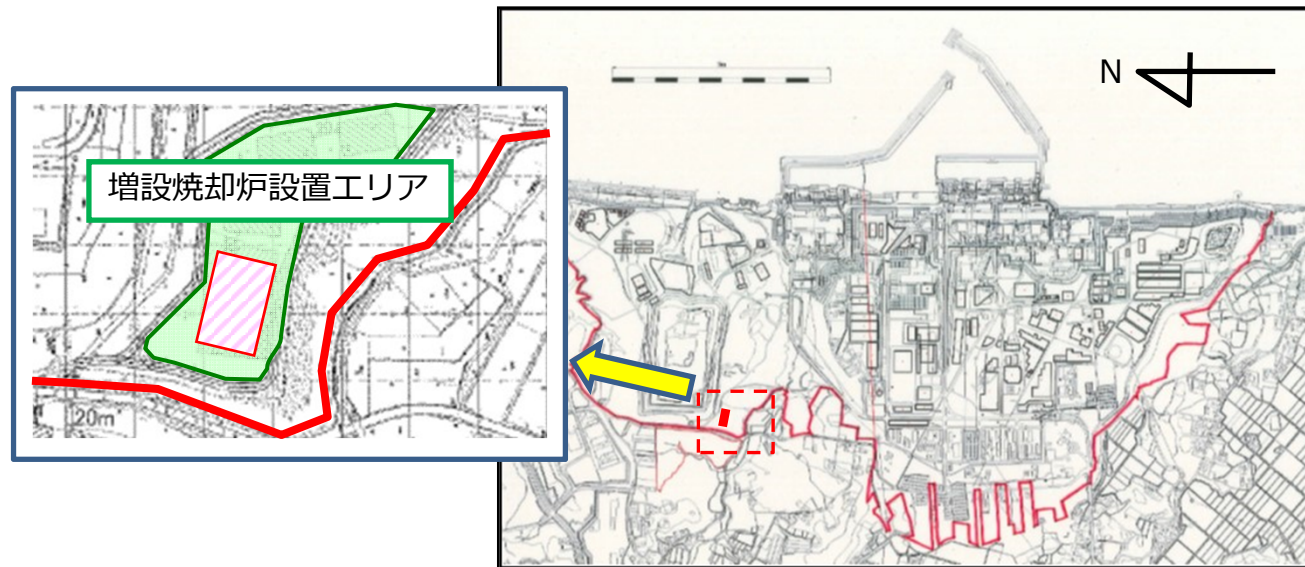
福島第一原子力発電所 増設雑固体廃棄物焼却設備の進捗状況

2018年3月1日

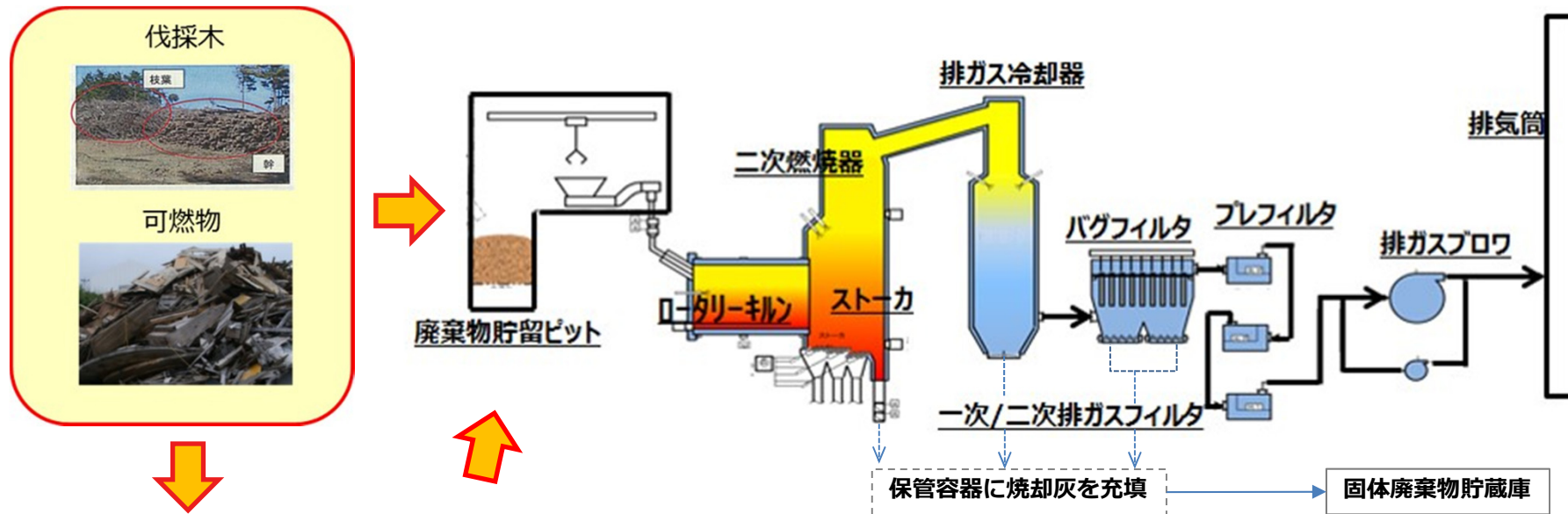
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

- 2016年8月24日付けで提出している「廃棄物関連施設の新・増設計画」について、廃炉安全監視協議会及び安全確保技術検討会において、内容を確認頂き、2016年12月21日付けで事前了解を頂いている。
- 「廃棄物関連施設の新・増設計画」のうち、増設雑固体廃棄物焼却設備（以下、増設焼却炉）については、2017年3月30日に建築基準法に基づく建築確認を受けて建築確認済証を受領し、2017年4月11日には原子力規制庁へ実施計画変更認可申請中である。
- 現在、基礎工事を行っている状況。



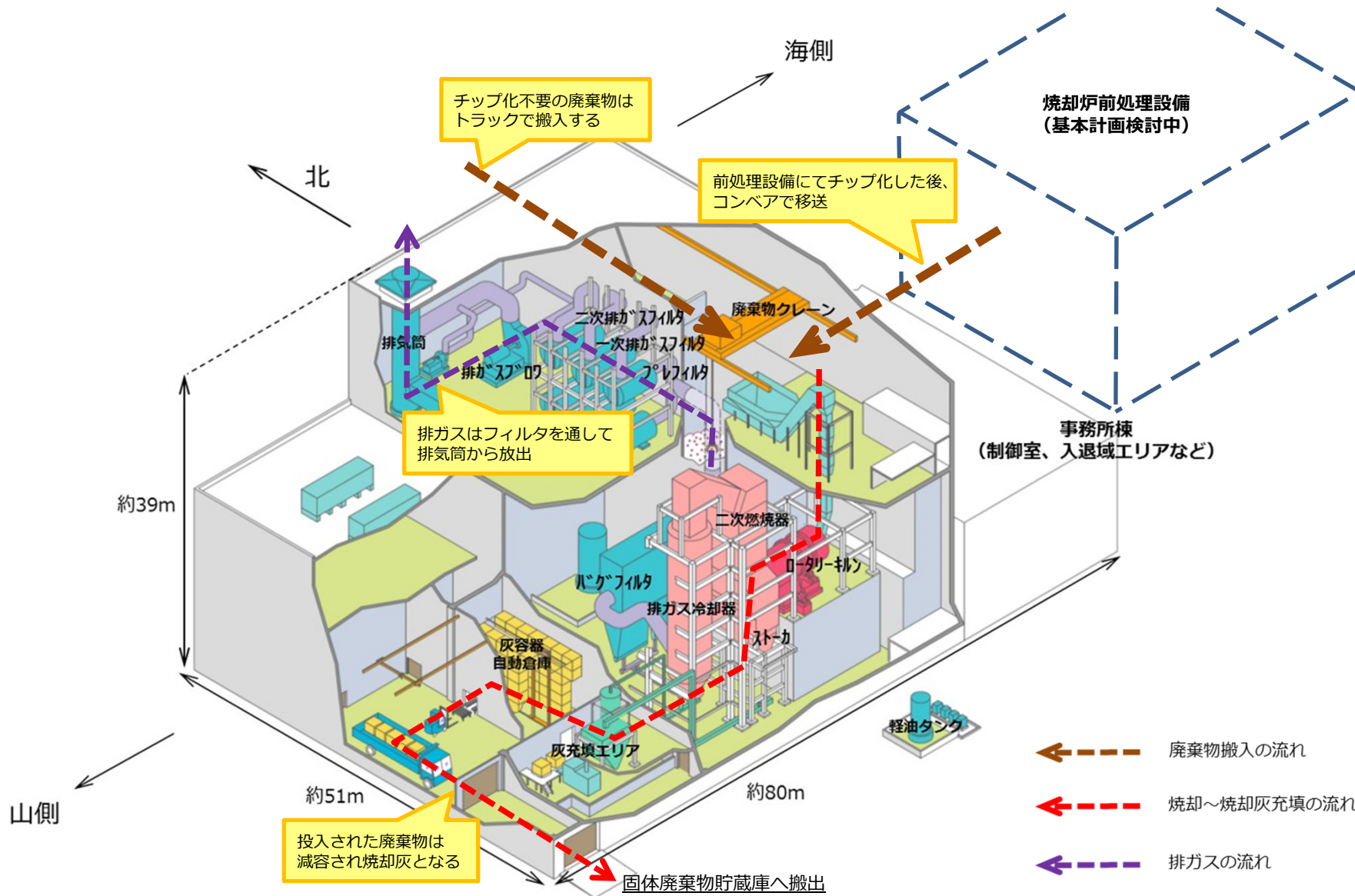
1-1. 増設焼却炉の概要（概略系統、仕様）



※ 現在基本計画検討中であり今後説明予定

項目	増設雑固体廃棄物焼却設備
処理容量	95 t / 日 (24時間運転)
炉型	キルンストーカ式
処理対象物	主に伐採木、瓦礫類等の可燃物
除染係数	フィルタ出口で 10^6 以上
耐震性	Bクラス (焼却炉などの主要機器、建屋) Cクラス (上記以外)
建屋構造	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造および一部鉄骨造)

1-2. 増設焼却炉の概要 (建屋鳥瞰図)



2. 建屋構造概要

表 増設焼却炉建屋の構造概要

耐震 クラス	構造	階数		軒高 (m)	建築面積 (m ²)	延床面積 (m ²)
		地下	地上			
B	RC造※	0	5	36. ⁴¹	4,012. ⁸⁹	9,110. ⁸¹

※ 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造および一部鉄骨造）

3. 工事状況写真

工事進捗率:2018年1月末:10%



① 1階鉄骨梁設置

建屋位置

増設雑固体廃棄物焼却炉建屋



事務所、駐車場
資機材置場



② マットスラブ配筋



③ 1階床デッキ設置

